



核戦争を怖れて

私の高校生・大学生時代は東西冷戦が激しく、核戦争の危険を感じて過ごしていました。原爆による広島・長崎の惨状を想像していたからです。大学院生時代に新聞社でアルバイトをし、原爆報道についての情報収集・整理をしていました。その体験から、とりわけ占領期に原爆情報がコントロールされ、核戦争によって何が起ころのか、日本でさえ知られていないことを知りました。また1951年、朝鮮戦争で核兵器が使用されることを危惧した大学生が、原爆展のために活発に活動していることも知りました。

2021年に発効した核兵器禁止条約は、市民やとりわけ南半球の国々の支持を受けました。現在も、とりわけ被ばく問題は世界的に知られているとは言えませんが、市民による活動によって核戦争の惨状が伝わっているのだと思います。

グローバルヒバクシャ研究

1990年代、アメリカの地方紙『アルバカーキー・トリビューン』がマンハッタン計画の中で人体実験をしていたことを詳細に報道し、そのことがきっかけで多くのアメリカの原爆開発・核実験関連の史料が開示されました。それらの史料によると、マーシャル諸島ビキニ環礁で実施された核実験によって多くのマーシャル諸島の人々が被ばくし、「プロジェクト4.1」という研究対象になっていたことがわかりました。私は2004年にマーシャル諸島共和国に行き、核実験によって被災した人々に会い、お話を聴きました。こうした体験で、世界のヒバクシャの問題、すなわちグローバルヒバクシャ研究の重要性を痛感するようになりました。

奈良大学の史学科で学ぶ

奈良大学の史学科では時代・地域を超えての想像力が培われると思います。また、「なぜ」という好奇心が育まれると思います。私がよく史料収集する米国立公文書館前の銅像には、「過去の遺産は未来に実りをもたらすための種(The heritage of the past is the seed that brings forth the harvest of the future)」という言葉が刻まれています。過去に向き合い、歴史的史料を保全し、研究し、勉強してゆくことは、未来を守るためにも大事なことです。私は学生の皆さんと共に、歴史を学び続けたいと思っています。

受験生へのメッセージ

2020年2月以来、みなさんはCOVID-19の影響で自由に行動できない生活を送ってきたことと思います。しかし、歴史を学ぶことで、古代から現代、そして世界中をテーマに旅ができます。そして自分の選んだテーマで卒業論文に取り組むこととなります。奈良大学史学科で、時代・地域を超えた旅をしましょう。

研究室紹介

文学部 史学科

TAKAHASHI Hiroko
高橋 博子 教授

兵庫県生まれ。同志社大学文学部文化学科卒業、同志社大学文学研究科文化史学専攻博士号取得。明治学院大学国際平和研究所研究員、名古屋大学大学院法学研究科研究員などを経て、2020年本学着任。著書に『封印されたヒロシマ・ナガサキ:米核実験と民間防衛計画』(凱風社、2018年、2013年に新訂増補版)がある。

ならぶ
Na Love

Nara
University
Bulletin Vol.192





ボランティアで「考古学」を活用！ 活動内容を卒業論文に。

文学部文化財学科 3年 阿部 幸音 さん (兵庫県・神戸龍谷高等学校出身)

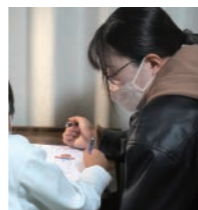
個別療育、児童発達支援&放課後デイサービスの事業所「にじいろくれよん」(奈良県橿原市/代表者 磯田 康徳)でボランティアスタッフとして活動している阿部さん。文化財学科で培った知識を活かし、「考古学講座」を行っています。



ボランティア活動

普段は週に1度、集団療育の放課後デイサービスの補助員として、宿題や遊び、工作やプログラミングなどを行う児童をサポートしています。ボランティアを始めて1年経った昨年、「考古学講座」を担当させてもらえることになり、6月に「発掘調査体験」、10月に「勾玉作り」をテーマに実施しました。現在、次の講座の準備中です。

大学2年の4月、コロナ禍で対面授業ができなかった時、何かしようと思立ち、インターネットでボランティアを探しました。児童発達支援を行う施設では、専門に学んでいる学生をスタッフとして受け入れることが多い中、こちらの事業所は幅広い分野の学生を受け入れていました。考古学を学んでいると伝えると、磯田社長が「ぜひうちでイベントを」と言ってくださいました。この時の言葉がなければ、今の私はないと思っています。



普段の活動の様子

考古学講座

企画立案から準備、実施までたくさんの人が携わり、「考古学講座」を作り上げています。私は、主に企画とワークシート/パワーポイント資料の作成などの準備、当日の説明を担当しています。磯田社長や放課後デイサービスの先生に療育の観点から助言をいただいたり、内容についてゼミの指導教員である千田嘉博先生に相談したり、同様の子ども向け講座を実施されている博物館学芸員の方に連絡を取ってお話を伺ったり、とても周囲に助けられています。

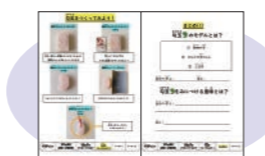
10月の講座では、大学のサークル「考古学研究会」から借りた本物の土器を児童に触ってもらったり、学芸員の助言を得ながら制作した貫頭衣を児童に着てもらったりしました。

一番大変なのはワークシートの作成です。ワークシートは、読めば講座の全てがわかり、児童が親御さんに見せながら「これやったんだよ」と伝える、とても重要なツールです。イラストを入れたり、ふりがなをふったり、児童向けにさまざまな工夫をして作成します。大学の、歴史好きだらけの環境に慣れ過ぎて、「歴史好きでない人の気持ちに寄り添えていない」と磯田社長から助言をいただき、気を付けるようにしています。

1頁を作るのに何週間もかかる時や、何もアイデアが出なくてしんどい時もあります。けれど、2時間の講座で児童の楽しそうな姿や成長を見ると、とてもうれしくなり、大変なこと以上に楽しいことがあるので頑張れます。



考古学研究会から土器をお借りしました



工夫を重ねて作ったワークシート



磯田代表、スタッフ(先生)との打ち合わせ



「勾玉作り」の様子

卒業論文と今後の目標

小学生の頃から歴史好き、お城好きで、幅広く歴史を学べる奈良大学を選び、文化財学科に入学しました。3年次からの演習は千田ゼミに所属し、卒業論文(卒論)でお城の研究をしようと考えていました。しかし、「にじいろくれよん」で活動し、大学で文化財の活用について学ぶ中で、考古学を子どもたちの育成に活かすことができるのではないかと考えるようになりました。そして、この活動を通して研究を進め、療育分野における考古学の活用について卒論を書こうと決めました。卒論のテーマを変えたのは、同級生に自分よりも能力が高い人、器用な人が多いと感じる中で、同じようにやるより、違う方面で自分なりのやり方で勝負をしてみようと思ったことも要因の一つで、千田先生も背中を押してくださいました。

今後の目標は、よりよい企画の作成とよい卒論を執筆することです。そして、私の活動に関わってくださった周りの人に感謝を伝えていきたいと思っています。

後輩へのメッセージ

何かを始めたいと思っている人がいたら、迷わずやってみたらいいと思います。面白かったら続けられればいいし、興味が続かなければやめたらいい。面白いと思えることを見つけたり、自分のいいところを見つけて、磨きをかけよう意識をして行動するといいいのではないかと思います。まずは行動してみる、一歩踏み出して、どんな結果であろうとやってみるということが大事だと思います。



奈良大学 地理学講義室にて

大阪府立桜塚高等学校での出張授業

教員を目指す地理学科3年の浜田優希さん、野村奈央さん、同4年の馬場虹征さん、松岡秀隆さんと木村圭司教授(地理学、気候学、GIS)が、9月2日(金)と9月6日(火)に大阪府立桜塚高等学校で出張授業を行いました。学生4人は、同校1年生、全8クラス(各1コマ)で地理総合の授業を担当しました。学生が作成したGIS教材「世界の家から気候を考える～世界一周の旅～」を使って、地図と各国の家の写真をもとに建物の特徴を見ながら、気候の情報や雨温図を照らし合わせ、熱帯・乾燥帯・温帯・亜寒帯・寒帯の5つの気候帯を、PCを用いて学ぶ授業を行いました。

文学部地理学科 3年 浜田 優希 さん(富山県立魚津高等学校出身)



教材を作成するにあたり、「どうすれば生徒が理解しやすいか」ということを重点的に考えました。淡々と学習事項を暗記していく内容では生徒が退屈するため、国内外のいろいろな場所で木村先生が撮影された写真などを利用して、世界の各気候区

の特徴的な家とその周辺の様子からどのようなことが読み取れるかを生徒自身で考えてもらうことにしました。

授業では、生徒が自分の考えを発表しやすいような雰囲気を作るようにしました。生徒の発言に対して必ずコメントを返すことを心掛け、生徒の発言を一つひとつ大切にしながら授業を展開していきました。

授業を始めるまではとても緊張していましたが、興味を持って聞いてくれる生徒を見て、私自身楽しく授業を行う



テレビ大阪の取材を受ける浜田さん。授業の様子がニュースで紹介されました

ことができました。授業が終わると、理解しやすい授業だったかが気になりましたが、マスコミの取材を受けていた生徒が「中学校とは違った授業で、分かりやすかった」と答えていて、一安心しました。

文学部地理学科 4年 松岡 秀隆 さん(大阪府立牧野高等学校出身)

出張授業の話をしていただいたのは、母校での教育実習が終わって間もない頃でした。採用試験や卒業論文の準備で忙しい時期ではありませんでしたが、実習先で学んだことを生かせるよい機会だと考え、参加を決めました。

教育実習では、生徒の顔を見て話をすること、教科書に書いてあることだけでなく、生徒が興味を持つようなプラスアルファの話をすることが大切だと教わりました。その時は、授業を進めるだけで精一杯でしたが、今回の出張授業では、生徒の反応を見る余裕がありました。クラス毎に授業の雰囲気も異なるので、変化をつけて授業を行いました。経験と工夫の積み重ねが自分の成長につながることを実感し、参加してよかったと思いました。

私が地理学科に入ってまず思ったのは、地理学が自分の周りのいろいろなことにつながっているということです。例えば、通学の時に電車に乗ったり、坂道を歩いたりすることも、交通地理学や、地形学、さらには災害地理学(防災)などにつながります。これも地理に関係していると発見し、学びを深めることが地理学の面白さです。教員になり、地理を学ぶ醍醐味を生徒たちに伝えていきたいです。



Contents

- 1 巻頭特集 学生の活動
- 9 トピックス
- 13 インフォメーション
- 7 大学院紹介
- 11 クローズアップ
- 15 研究室紹介
文学部史学科 高橋 博子 教授
- 8 第53回青垣祭
- 12 入試日程



国文学科の学生が 狂言の世界を紹介するミニ冊子 『奈良大生の観た狂言』を制作

絵：岩田千治
文：岡崎莉子
監修：三宅晶子

国文学科の学生が授業で作成したリアクションペーパーの絵と文章を使って、学生による若者のための狂言解説書を作成しています。三宅晶子教授が授業で取り上げた8曲の狂言について、絵を中心に、適宜コメントや感想を入れた紹介冊子を作る予定です。10月には「附子(ぶす)」が完成しました。

“絵”担当

文学部国文学科 1年 **岩田 千治 さん** (奈良大学附属高等学校出身)

この授業では、舞台映像を見ながら、三宅先生の解説を聞き、事前に出された問題の解答と感想・質問をリアクションペーパーに書いて提出します。

私は、文章だけで狂言の内容をまとめたり、感想を書いたりするのはではなく、「この動きをこう理解した」「この表現がすごくよかった」と、その場面の絵を描いて、リアクションペーパーを作成しました。その方がよく伝わると思ったからです。

三宅先生からとてもよい評価をいただき、自分を認めてもらえてとてもうれしかったです。さらに、自分の絵が狂言の紹介冊子の挿絵として使われるという、全く想像していなかった展開に、新鮮な驚きとうれしさを感じています。



“文”担当

文学部国文学科 1年 **岡崎 莉子 さん** (奈良県立五條高等学校出身)

能と狂言の違いすらわからない、狂言がどういうものか知らない、というところから授業がスタートしました。古典の作品が苦手だったので、きちんと映像を見て、三宅先生の話聞いていないと理解できない、授業についていけないと初めは思っていました。けれど、実際に映像を見てみると、思ったのと全然違いました。授業だから見ないといけない、ではなく、見ていて引き込まれ、真剣に見入り、面白くて笑ってしまいました。

狂言と聞くと、少し堅苦しいというイメージを持ってしまいがちですが、実際に見てみると、すごく面白いし、いいなと感じました。鑑賞する機会さえあれば、もっと引き込まれる人が多いだろうと思います。



文学部国文学科 三宅 晶子 教授 (中世文学)

狂言の魅力伝える授業における、舞台映像鑑賞後のリアクションペーパーがスタートです。

一般の学生は文章で書きますが、岩田さんは絵を描いてくれました。映像を見ながら、あっという間に、さまざまな場面を可愛らしく、しかも正確に捉えています。それが余りにも素敵なので、ただの提出物で済ませるのはもったいないと思いました。

冊子は岩田さんの絵で進行しているのですが、各曲ワンカットずつ、岩尾千翔(みのり)さん(国文学科1年)の絵も挿入されています。岩尾さんは目に見えていない印象を絵にすることが得意なのです。

岡崎さんの文章は、キラリとひかる面白い捉え方が随所にあり、絵だけでは伝えきれない大切な情報を補ってくれています。

はじめて狂言に接した学生の新鮮な感動。第一印象だからこそその輝き。それを大切にしながら、冊子としての体裁を整えました。



『奈良大生の観た狂言(附子)』

～授業紹介～

文学部国文学科1年次生の必修科目「言語文学」は、少人数による国文学研究入門の授業です。令和4年度は、(一)三十六歌仙の歌を詠む、(二)狂言、(三)初期草双紙(青本)をよむ[前期] / 黄表紙をよむ[後期]、(四)現代小説を日本語学的に読む、(五)小説の読み方、(六)芥川龍之介の短編小説を読む、の前期・後期各6つのテーマ(科目)が設定されました。受講対象の学生は、クラスごとに分かれて前期と後期で1科目ずつ(計2科目)履修しました。

三宅教授の担当科目では、「狂言」をテーマに、身体言語としての狂言、室町・江戸・明治の古い時代の文化、日本人のしぐさや生活習慣、風俗などを学び、現代人との共通性と相違について学びました。



京都ツアー：真言宗御室派 総本山仁和寺にて

「奈良大学史学会」 学生委員の活動 体験ツアー＆青垣祭



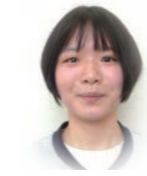
青垣祭

史学科の学生・大学院生・教員を会員とする学術団体「奈良大学史学会」。主な活動は大学院生・教員による研究発表で、学術雑誌『奈良史学』を毎年刊行しています。

令和4(2022)年度の史学会 学生委員の活動を紹介します。

奈良大学史学会 学生委員 代表

文学部史学科 3年 **中西 栄美 さん**
(大阪府立夕陽丘高等学校出身)



学生委員は、史学科学生を対象とした歴史にまつわる体験ツアーの企画・運営、青垣祭での展示、史学科共同研究室の管理、会報の発行などを行っています。

今年度は3年5人、2年4人、1年7人が委員として活動しています。体験ツアーの企画・運営を担当する広報局、青垣祭に関する活動を行う青垣局に担当を分けてはいますが、どのイベントも局を超えて全員が協力し、実施しています。上下のつながりはフラットな感じで、学年を超えて歴史好きが語り合える団体です。

私は元々「何でもやってみよう」という精神を大切にしていますが、学生委員の代表として活動する中で、より積極的に挑戦するようになった気がします。また、周りの状況を把握する力も養われました。



奈良(宇陀・桜井)ツアー：総本山長谷寺にて

奈良大学史学会 学生委員 広報局長

文学部史学科 3年 **津田 ありさ さん**
(福岡県・福岡第一高等学校出身)



今年度は3つの体験ツアーを実施し、参加者に楽しんでもらえるよう、新しいことを積極的に取り入れました。

5月の京都ツアーは、東部ツアー(三十三間堂、八坂神社)と北西部ツアー(仁和寺、北野天満宮)の2つの企画を実施しました。また、これまで個別に行っていた参加者への連絡を、アプリを用いた方法に変更しました。

12月には室生寺(奈良県宇陀市)、大野寺(同)、長谷寺(奈良県桜井市)を訪れる奈良ツアーを実施しました。従来の自由見学だけでなく、事前に先方と調整し、三カ所とも僧侶にご案内いただきました。また、新企画として、自由時間にクイズ形式で指定された写真を撮影するミッションツアーも行いました。

活動を通して、「新しい試み」がとても大変だと思い知らされました。仕事の割り振りがかたく出来ず、1人で抱え込んだ時もあり、苦労しましたが、ツアー当日の参加者の楽しそうな様子を見て、頑張ってよかったなと思いました。



青垣祭で配布した「祭り」の冊子

奈良大学史学会 学生委員

文学部史学科 2年 **宮崎 太郎 さん**
(富山県立呉羽高等学校出身)



今年の青垣祭では、「生活の歴史」をテーマに展示を行い、インフラ、給食、洋食といった身近なものの歴史について紹介しました。

また、「祭り」を主題とした冊子を作成・配布しました。

「世界各地の祭り」の章では、学生委員各々が関心を持った祭りを調べて紹介しました。富山県の布橋灌頂会(めのぼかんじょうえ)、大阪天満宮の天神祭、日本とスペインの闘牛、ドイツのビール祭り「オクトーバーフェスト」、ギリシャ復活祭、イタリアのヴェネツィア カーニバルについて説明しています。「ツアー概要・体験記」の章では、前年度の冬のツアー(ならまち・橿原神宮・今井町)と、今年度の京都市ツアーの概要と体験記を掲載しました。

今回初めて大学祭に参加しましたが、高校や中学校の頃とは違う、自由な感じが楽しかったです。

来年度は学生委員の代表として活動予定です。現代代表の中西さんはみんなを引っ張っていくタイプです。私はみんなの意見を聞いてまとめていけたらと考えています。気負わず、自然体でやっていこうと思います。



青垣祭(展示の様子)



心理学科のゲートキーパーグループが青垣祭で自殺予防のワークショップ（啓発活動）を展開

社会学部心理学科の太田ゼミを母体とする、ゲートキーパーグループ「Again」。青垣祭で、若者の「死にたい」「消えたい」気持ちの発生と自殺に傾く身近な人への寄り添い方について、啓発活動を行いました。奈良市の保健予防課の方にも視察いただき、今後、奈良市と連携した活動も行っていく予定です。

※ゲートキーパー：悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のこと。（厚生労働省「誰でもゲートキーパー手帳」より）

社会学部心理学科 3年 佐々木 稜 さん (大分県立大分工業高等学校出身)

青垣祭では、自殺予防に関する5つのテーマについて調査した内容をパネル展示しました。

私の班は、これまで自殺可能性を察知するための尺度が、今の若者(特に大学生)の現状に合っているのかを調べるため、キャンパス内で大学生へのインタビューを実施しました。自殺に関する忌避的な態度から身近な人の可能性までさまざまな意見を聞くことができ、とても貴重で有意義な経験になりました。

ゲートキーパー活動を知るまでは、自殺予防は医者やカウンセラーなどの専門家にしかできないことだと思っていました。けれど、「死にたい」ほど苦しむ人にとっての援助者は家族や友達など周囲の人であり、身近な人が連携して支援する、という活動の根本の考え方を知り、「支え合うことで心が開かれる」という部分に共感しました。そして、「死にたい」と言われた時、「きっと楽しいことがあるよ」と言ったり、そのことに触れないようにすることが正しいかと思っていましたが、それは間違った思い込みで、「どうしてそう思うの？」と本人の話に耳を傾ける必要があると知りました。青垣祭でのワークショップでは、ゲートキーパーの輪を広げるだけでなく、正しい知識を広めるという意義があったと思います。誰もが当事者であり、たすけを求められた自分こそが可能性へのゲートだ、ということを一人心ひとりが考えてほしいと思っています。



社会学部心理学科 太田 仁 教授 (社会心理学)

心理学科のゲートキーパーグループ「Again」には、その名の通り何でもアプローチして命をつなごうという意思が込められています。この活動の特徴は、単なる自殺予防に関する既存の情報の紹介活動にとどまらず、実際に大学生を対象とした調査に基づく開発的な展開にあります。今を生きる大学生のリアルな苦しみをさまざまな角度の調査から明らかにして援助への手がかりをつかむことを目指しています。これまでの政府の調査等では経済的な問題で思い詰めるのは成人だけとされていましたが、今回の調査では、男子学生は経済的困窮で自暴自棄になり、女子学生は非社会的になることが、分析により明らかになりました。さらに、過去にいじめ等の耐え難い心傷体験のある人は、挨拶や感謝・謝罪の言葉すら口にしにくいことが判りました。この成果は若者の苦しみの一端を明らかにしたにすぎません。今後も、調査過程での協力も啓蒙活動であるとの指針を大切に、活動を展開したいと考えています。

～青垣祭での各班の取り組みテーマ～

- 1班(班長:野中絵美子)「自殺予防の取組」これで本当に救われるの？
 - 2班(班長:藤井佑佳)「自殺予防の対人関係理論」絶望から救えるのは寄り添い覚悟から！
 - 3班(班長:鈴木智尋)「自殺予防に関する都市伝説・偏見」死にたいって言っている人は・・・
 - 4班(班長:保田華奈)「若者の自殺現状」日本の若者の死因 1位が自殺って・・・いつからなの？
 - 5班(班長:佐々木稜)「若者が自殺に傾く時」若者の自殺に傾く気持ちは見えにくい・・・
- 監修・指導教員 奈良大学社会学部心理学科 教授・社会学博士 太田仁



厚生労働省作成の『誰でもゲートキーパー手帳』



学生の発表を聞く太田教授(右)

社会学部心理学科 3年 鈴木 智尋 さん (神奈川県・横浜女学院高等学校出身)

日本は若者の死因順位第1位が自殺という異常な状況にあり、自殺は私たちにとって身近な問題といえます。今回の活動で、私達の班は自殺に関する都市伝説について調査をしました。その結果、「死にたいと言っている人は死なない」や「死にたいと言っている人はかまってほしいだけ」といった偏見や誤認識が数多く存在していること、人々は自殺について忌避的な態度であることを再認識しました。歪んだ常識の所在を明らかにし、死にたい気持ちのリアルを共有する必要があると感じ、まずは学内から、自殺予防の知識を普及させるための活動をしていきたいと思いました。

ゲートキーパーには、気づき、傾聴、声かけ、つなぎ、見守りの5つの役割があります。私は特に気づきとつなぎが大切だと思っています。「気づく」ことは思いやりをもつことであり、人に関心を持ってもらえれば、とどまる人もいます。そして、死にたい深刻な思いは、たすけを求められた私たちから専門家に「つなぐ」ことができます。太田ゼミが行った調査では、友達にカウンセリングを勧められたら、75%の人が受けてみようと思うと答えているという結果が出ています。私達だから救える、信頼して話してもらえた私だから救える命がある、ということを知ってもらいたいです。



社会学部総合社会学科 1年 田中 李音 さん (島根県立大田高等学校出身)

議員の仕事というのは議会活動が中心だというイメージを持っていましたが、実際の活動内容を聞いて、地域でさまざまな活動をされていることがわかりました。

ワークショップでは、「厚生消防委員会」グループに入り、令和4(2022)年4月に開設された奈良市子どもセンターについて話し合いました。地域子育て支援センター、キッズスペース、子どもの発達相談、子ども家庭総合支援拠点、児童相談所の5つの機能を持ち、安心して子育てができるように、子どもたちが安心して育つように、子どもの成長に応じた支援を行っているこのセンターが、相談したい人の頭にすぐ浮かぶように、認知度を向上させることが重要だと思いました。



第1回:10月24日(月)
「市政についての理解・委員会の概要」について、議会運営委員長の太田晃司議員による講義を受けました。学生たちは、熱心に説明を聞き、次回以降のグループワークで参加する委員会を検討していました。



第2回:10月31日(月)
学生たちは、それぞれ関心を持った委員会に分かれ、その取り組みについて説明を受け、意見交換をしました。

ご協力いただいた奈良市議会の皆さま
 伊藤剛副議長
 議会運営委員会:太田晃司委員長、九里雄二副委員長
 総務委員会:森田一成議員、柳田昌孝議員
 観光文教委員会:岡本誠至副委員長、北村拓哉議員
 厚生消防委員会:白川健太郎委員長、山出哲史副委員長
 市民環境委員会:八尾俊宏委員長、下村千恵議員
 建設企業委員会:樋口清二郎委員長、藤田幸代副委員長、井上昌弘議員
コーディネーター
 奈良大学 副学長/社会学部総合社会学科 島本太香子教授

総合社会学科1年次の「基礎演習」で奈良市議会と連携

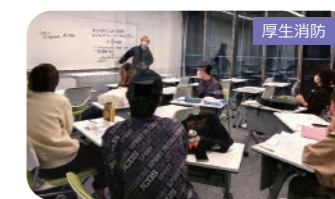
『基礎演習Ⅱ』は1年次生後期の必修科目です。総合社会学科では、「リサーチオリエンテッド」の精神のもと、現実の問題にアプローチするために、自ら問題を発見し、解決していくために必要な姿勢と技術を身につける」ことをこの科目の目標としています。

今年度は、4回にわたり奈良市議会と連携した授業を行いました。学生たちは、市政や地域社会への理解と関心を深め、今住む地域のさまざまな課題への具体的なアプローチ法、解決のための考え方、政策決定などについて、地域の中で実際に活動されている市議会議員の方々から学びました。

社会学部総合社会学科 1年 石橋 聖人 さん (兵庫県立川西明峰高等学校出身)

これまで興味がないわけではなかったけれど、政治は遠い存在だと思っていました。今回市議会について説明を受け、さまざまな役割を持つ委員会があり、地域の課題に取り組んでいることを知りました。自分が住んでいる町ではないけれど、「政治」を身近に感じることができました。

私が参加したグループは、選挙や災害対策などを担当する「総務委員会」でした。若者の投票率が必ずしも高くないことについて、理由や解決策を話し合いました。私達のグループの昨年夏の参院選投票率も同様でしたが、今回の授業をきっかけに政治への関心を深めることができました。



第3回:11月7日(月)
第4回の市議会議員の方々との意見交換に向けて、各グループがテーマを決めてディスカッションを行い、発表用の資料にまとめました。



第4回:11月14日(月)
全体で集まり、各委員会のテーマに沿って学生が話し合った内容を報告し、担当された議員の方々からコメントをいただきました。

発表テーマ

- 「総務委員会」グループ:若い世代の投票率
- 「観光文教委員会」グループ:学校給食と地産地消の取組み
- 「厚生消防委員会」グループ:奈良市に新設された「子どもセンター」について
- 「市民環境委員会」グループ:クリーンセンターが市民に広く受け入れられるために
- 「建設企業委員会」グループ:道路の安全

■ 大学院紹介

大学院で学ぶ

社会学研究科 社会学専攻 修士課程(臨床心理学コース)

奈良大学大学院は、文学研究科と社会学研究科で構成されています。文学研究科には、国文学専攻(修士課程)、文化財史料学専攻(博士前期・博士後期課程)、地理学専攻(修士課程)の3つの専攻、社会学研究科は社会学専攻(修士課程)を設置しています。

今号では、社会学研究科 社会学専攻 臨床心理学コースに焦点を当て、その学びについて、修士課程1年中村優希さんに話を聞きました。



大学院 社会学研究科 社会学専攻
修士課程(臨床心理学コース) 1年
中村 優希 さん

大学院ってどんなところ？

臨床心理学の理論と研究法、臨床実践の専門的技法を中心に学びます。修士課程を修了すると、公認心理師、臨床心理士(資格認定協会第1種指定大学院)の受験資格が取得できます。修了生は、現代社会の「こころの問題」に対応できる心理職として、幅広い分野で活躍しています。

大学院に進学した理由は？

大学(学部)進学時は、将来スクールカウンセラーになるのかな、と漠然と考えてはいたものの、面白そうだからという理由で心理学科を選びました。学部(社会学部心理学科)で実習を行う中で、心理職についての輪郭がはつきりしてくると、学んだことを生かしたい、資格を持った心理職として働きたい、と思うようになり、大学院に進学しました。

心理学は幅広い分野に活用されており、学校、医療機関、福祉施設、警察、地方公共団体、一般企業など、知識や技術を活かせる場所がたくさんあります。どの分野にも魅力を感じ、気持ちが揺らいだ時期もありましたが、将来は、最初に興味を持ったスクールカウンセラーになりたいと思っています。

学部と大学院での学びの違いは？

学部では、心理学のさまざまな分野を広く浅く学びます。先生方も、幅広く学び、知識を広げるようにと折に触れておっしゃっています。

大学院では臨床心理学について、より専門的、実践的に研究・習得します。



臨床心理基礎実習の様子

一番印象深い授業を教えてください。

本学附属の心理相談施設(奈良大学臨床心理クリニック)や、学外実習施設で行う心理実践実習です。

本学の实習先は保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの領域があります。私は、今年度の前期に、高齢者施設を併設している整形外科の病院で実習しました。整形外科に心理職が？と思うかもしれませんが、入院患者や大きな手術を控えている患者などのメンタルケアはとても大切です。講義や臨床心理実習、臨床心理基礎実習などの学内実習で学んだ知識・技術が、実際に現場で使われているのを見て、学んだことを確実に身につけ、自分の力にする大切さを感じました。そして、医師、看護師、理学療法士、心理職など多くの職種の人たちが連携して患者さんの治療やケアを行っている姿に、先生が授業で繰り返しおっしゃっていた多職種連携の大きな意義を実感し、その重要性を改めて認識しました。

後期には奈良大学臨床心理クリニックで教員や外部の指導者(スーパーバイザー)に助言・指導いただきながら実際に相談に来られた方を担当し、グループで支援検討を行うグループスーパービジョンや、ケースカンファレンス(事例検討会)を行います。先日、担当する方(ケース)が決まり、新しいことへの挑戦に期待が膨らんでいます。



奈良大学臨床心理クリニックにて

奈良大学大学院

文学研究科 国文学専攻
文化財史料学専攻
地理学専攻

社会学研究科 社会学専攻
・社会文化研究コース
・臨床心理学コース

臨床心理実習などの学内実習で、臨床心理面接、臨床心理査定の基本的スタンスや技能を学び、学外実習で活用します。

たとえば・・・



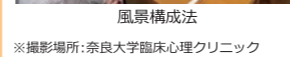
初開催のeスポーツ



心理面接ロールプレイ



箱庭療法



風景構成法

※撮影場所：奈良大学臨床心理クリニック

メッセージ

大学についてはいろいろな情報源がありますが、大学院の情報を探すと意外と少ないものです。私は奈良大学の卒業生なので、先生のこと、施設や設備のこと、既に知っている安心感がありましたが、外部から進学する人は、情報が少ないことに不安を感じるかもしれません。本学は学生・大学院生と先生との距離が近く、助言や指導をいただく機会がたくさんあり、安心して知識や技術を習得できる環境です。私は人との関わりを楽しみながら学びを深めています。

■ 第53回青垣祭

青垣祭実行委員会の学生が企画・運営する本学の大学祭「青垣祭」が11月3日(木・祝)、4日(金)に開かれました。例年の展示・発表のほか、お笑いライブ、縁日風模擬店などを行いました。また、初めての試みとしてeスポーツ大会も開催しました。

※マスク着用、手指消毒、換気等、新型コロナウイルス感染防止対策を施して大学祭を実施しました。演奏時、写真撮影時のみ、マスクを外しています。



縁日風模擬店

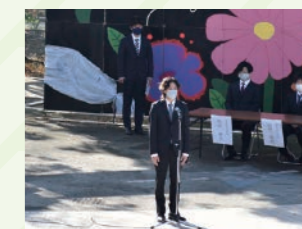


青垣祭実行委員会 委員長/文学部国文学科 3年 水上 高斗 さん(石川県立飯田高等学校出身)



本部テントにて(左が水上さん)

委員長、副委員長、各局長が毎週進捗状況を共有して話し合い、各局で計画的に準備を進め、みんなが助け合って青垣祭を作り上げました。私が実行委員として青垣祭に関わったのは、コロナ禍の影響により今回が2度目でした。大半の委員も同様に経験の少ない状況で、わからないこと、初めてのことばかりでした。しかし、来場者の楽しそうな姿や、保護者や職員の方の「よかったよ」「頑張っているね」という声に青垣祭の成功を実感し、うれしかったし、安心しました。委員会のみんな、イベントに携わっていただいた関係者の皆さんへの感謝の気持ちでいっぱいです。



開会で挨拶する水上さん

後輩へのメッセージ

委員会のメンバーは2学部6学科から集まっており、学部学科を越えたつながりが作れます。8つの局(編集/企画/警備/広報/財務/渉外/設営/総務)に分かれて、1~3年生と一緒に活動するので、縦にも横にもつながりが広がります。私は、青垣祭の成功という目標に向かい、仲間と活動したことがよい思い出になったし、濃い時間を過ごせたと思っています。皆さんも委員会に入って、一緒に活動しましょう！

9月 September

25日 「教育のつどい」開催



本学と奈良大学後援会の共催による令和4(2022)年度「教育のつどい」(「保護者のつどい」から改称)が、9月25日(日)の東京会場を皮切りに、静岡(10月9日)、名古屋(10月23日)、岡山(10月16日)、福岡(10月2日)、奈良(10月10日)の6会場で開かれました。当日は、本学教員による講演、就職関連の説明、個別懇談を行い、たくさんの方のご参加に感謝いたします。



30日 博物館企画展 「小路遺跡と周辺の遺跡」開催



9月30日(金)～10月28日(金)に博物館企画展「小路遺跡と周辺の遺跡」を開催しました。小路遺跡は天理市に所在する古墳時代の集落遺跡で、1986年に文学部文化財学科の酒井龍一先生(現 名誉教授/当時 助教授)が調査され、令和3(2021)年度に文学研究科文化財史学専攻の大学院生と文学部文化財学科の学生を中心として、発掘に携わった卒業生などのご協力を得て正式な報告書を刊行しました。本企画展は、天理市教育委員会にご後援いただき、本学による調査資料のほか、天理市が長年にわたり調査された小路遺跡に関連する資料を展示しました。

展示初日には、奈良大学博物館学芸員でもある岡田健教授(文化財防災、文化財修復、美術史、博物館学)、本展示の企画・担当責任者である小林青樹教授(東アジア考古学、祭祀考古学)、小路遺跡の再整理作業や展示の企画・準備、図録作成などを行った、奈良大学博物館 嘱託学芸員で大学院生の橋本侑大さんと大学院生の垣内翼さん、そのほか大学院生、学生が参加して説明会を行いました。

10月 October

3日 図書館企画展 「2022年度全国方言資料展」開催



10月3日(月)～2023年1月19日(木)に図書館企画展「2022年度全国方言資料展」を開催しました。文学部国文学科の岸江信介教授(国語学、方言学、社会言語学)が日本各地を訪れてフィールドワークを行った際に入手した、方言に関する資料の数々が展示されました。

17日 「ウクライナ交流会」開催



ウクライナから避難されているオレクサンドラ・ワシリエフさんとナタリア・ステパネンコさんを本学に迎え、学生との交流会を行いました。お二人は現在、奈良市内に滞在されています。本学と包括的連携協定を締結し

ている奈良市からの紹介により、本学総合研究所の地域連携事業の一環としてこの交流会が実現しました。

社会学部総合社会学科・教授の島本太香子副学長の進行のもと、本学国際交流室の担当者の協力も得て、参加者たちが交流を図りました。

11月 November



2日 文化財学科の学生が「一日文化財保安官」に

文学部文化財学科2年の押田詩織さんと安倍愛奈さんが、奈良県警察本部から委嘱された「一日文化財保安官」として文化財防犯啓発活動を行いました。

文化財保護強調週間に併せて奈良県警が行っているこの活動は、平成27(2015)年に“文化財への油かけ事件”が起きたことから、文化財に対する防犯意識を高めることなどを目的に始まりました。毎年、本学文化財学科の学生が「一日文化財保安官」として、全国でただ一人の「文化財保安官」とともに、県内の文化財を保有する寺社をパトロールし、文化財防犯を広めるために行っています。

8年目となる今年は、協力依頼を受

けた文化財学科の魚島純一教授(保存科学)、押田さん、安倍さんが奈良県警察本部を訪れ、「一日文化財保安官」の委嘱式に出席しました。警察官の制服に身を包んだ押田さん、安倍さんは、奈良県警察本部長から委嘱を受けた後、文化財保安官とともに、法華寺、海龍王寺を訪れ、防犯対策状況の聞き取りなどを行いました。



21日 博物館企画展 「古写真のなかの奈良」開催中 (3月20日まで)

11月21日(月)から、奈良大学博物館で企画展「古写真のなかの奈良」が始まりました。

猿沢池畔で写真店を開業していた北村写真館の初代当主・北村太一氏とその孫にあたる北村信昭氏が撮影したガラス乾板写真(写真感光材を塗布したガラス板に被写体を写す明治10年代後半に登場した写真技術)をデジタル化し、写真パネルにして展示しています。ガラス乾板は、北村信昭氏のご遺族により平成12(2000)年に奈良

大学図書館に寄贈されたものです。いずれも明治から昭和にかけての奈良の風景を知ることのできる貴重な資料で、文学部国文学科の光石亜由美教授(日本近代文学)が中心となって整理とデジタル化を行いました。



12月 December

16日 奈良市議会と 包括連携協力協定締結



奈良大学は奈良市議会と、包括連携協力に関する協定を結びました。締結式は奈良市役所 議会棟で行われ、今津節生学長、島本太香子副学長、奈良市議会より北良晃議長、伊藤剛副議長、太田晃司議会運営委員会委員長、九里雄二同副委員長が出席しました。今後、議会の政策形成及び調査・研究と大学の人材育成及び教育・研究において相互に協力し、地域社会の発展及び人材育成を進めて参ります。

■ クローズアップ 第16回 全国高校生歴史フォーラム

奈良大学と奈良県は、歴史、地理、文化財、文学について研究レポートを募る全国高校生歴史フォーラムを開催しています。今年度は62校78編の応募レポートの中から、優秀賞5編、佳作5編が選ばれました。11月12日(土)には奈良大学令和館で優秀賞受賞者の研究発表会と表彰式が行われました。



記念撮影

研究発表会

佳作ポスター発表(3編掲示)

特別講演「壬申の乱と律令国家建設への道」
(講師:文学部史学科 渡辺晃宏教授)

審査結果

(敬称略)

学長賞

成城高等学校(東京都)
片岡義秀

甲斐国内の扇状地における居館と詰城の地理的関係



知事賞

神奈川県立足柄高等学校 歴史研究部

明治期における赤痢流行への対応
—「伝染病赤痢仮離隔病舎日誌」から—



優秀賞

※高等学校等コード順に掲載

東京大学教育学部附属中等教育学校 高玲衣
引越し大名の財政苦勞譚
～藩日記から読み解く松平大和守家の窮乏財政～

成城高等学校(東京都) 片岡義秀
甲斐国内の扇状地における居館と詰城の地理的関係

神奈川県立足柄高等学校 歴史研究部
高橋一星・朝倉亮太
明治期における赤痢流行への対応
—「伝染病赤痢仮離隔病舎日誌」から—

岐阜県立多治見高等学校 田中裕真
日本における男色文化の盛衰と伊達政宗
—LGBTQ+に寛容な現代社会の形成につなげる古の失われし文化—

長崎県立杵崎高等学校 東アジア歴史・中国語コース2年歴史学専攻
加藤紅葉・服部龍馬・山本拓真
「神宿る島」杵岐の信仰について
～歴史の変遷と特異性～

佳作

※高等学校等コード順に掲載

昌平中学・高等学校(埼玉県) 社会歴史研究部
石川結穂・野原葉乃・中西咲耶
深輪村のれきし
—『宗旨御改帳』にみる177年の記録—

千葉市立千葉高等学校 山上春香
有古城はどこにあるのか

國學院高等学校(東京都) 赤石楽子
翻訳を通じた近代日本の西洋思想の受容の実態

滋賀県立膳所高等学校 山崎敬幸
琵琶湖水上交通から考える大津城の豊臣政権における役割

鳥取県立青谷高等学校 青谷学Ⅱ(文学歴史コース)
山根明日美・中瀬佳奈美・前柚妃・小椋菜々穂・狩野美久・須山美優
青谷上寺地遺跡出土人骨の考察
—殺傷された少女人骨の問いかけるもの—

※全国高校生歴史フォーラムホームページに発表集や講評を掲載しています。
<https://www.nara-u.ac.jp/forum/>



入試日程

<試験日程の変更、選抜方法の変更について>

今後、試験日程の変更、選抜方法の変更が発生した場合は、速やかに告知、対応を行いますので、本学ホームページ等でご確認ください。



奈良大学 入試情報サイト

試験	出願期間	試験日	合格発表日	当日の試験科目など	
総合型選抜 (AO入試) 第3回目	エントリー: 2023・2/27(月)締切 本出願: 2023・3/2(木)~3/9(木)	国文	2023・3/19(日) (対面かオンライン)	2023・3/20(月)	学科別に異なる
		地理			
		心理			
		総合社会			
一般選抜	B日程	2023・1/4(水)~2/2(木)、 窓口2/3(金)	2023・2/8(水)	2023・2/12(日)	受験は3科目、 判定は高得点2科目
	C日程	2023・2/5(日)~3/8(水)、 窓口3/8(水)	2023・3/15(水)	2023・3/18(土)	受験・判定ともに 2科目
一般選抜 大学入学 共通テスト 利用入試	A日程	2023・1/4(水)~2/3(金)	2023・1/14(土)、 1/15(日)	2023・2/12(日)	3科目で判定 (必須、選択は学科により異なる)
	B日程	2023・2/5(日)~2/24(金)	2023・1/14(土)、 1/15(日)	2023・3/4(土)	2科目で判定 (必須、選択は学科により異なる)
	C日程	2023・2/23(木・祝)~3/10(金)	2023・1/14(土)、 1/15(日)	2023・3/18(土)	2科目で判定 (必須、選択は学科により異なる)

■ インフォメーション

～卒業生の近刊紹介&メッセージ～

◆ 落ちこぼれから始める白銀の英雄譚

鴨山兄助 著/刀彼方 イラスト
オーバーラップ文庫 2023年1月25日刊行予定
第9回オーバーラップ文庫大賞銀賞受賞作
(原題：白銀のヒーローソウル)



文学部国文学科卒業生の安田諒さんが、「鴨山兄助」のペンネームで執筆した『白銀のヒーローソウル』(原題)が第9回オーバーラップ文庫大賞の銀賞に選ばれ、『落ちこぼれから始める白銀の英雄譚』として刊行されることになりました。



安田 諒 さん

(文学部国文学科 2017年3月卒業)

この作品は、18世紀の架空の世界を舞台に、変身ヒーローが活躍するファンタジー小説です。ある理由により完全に変身することができない主人公が、新しい出会いを通じて精神的に成長する姿を描いています。

書くことに関心を持ったのは高校生の頃です。国語科の教員免許状を取得しようと入学した奈良大学で、真田信治教授(当時)や光石亜由美教授のもと、1つの小説をじっくり読み、分解・分析することを学びました。これは執筆活動に非常に役立ちました。大学卒業後は、大阪府の高等学校の国語科教員になりましたが、非常に多忙で執筆の時間を取れずにいました。その後、本格的に執筆活動を始め、この作品に取り組みました。

「変身ヒーロー」を主人公にしたのは、テレビで見た俳優のインタビューがきっかけです。役者になって戦隊ヒーロー役を勝ち取り、幼い頃のヒーローになる」という夢を叶えた、と話す姿に心を動かされました。子どもの頃同じ夢を持っていた自分も、「ヒーローもの」を執筆することで夢に挑戦しようと思いました。

何度もプロットを練り直して完成させた作品が賞をいただき、さらに出版社から刊行され、とてもうれしく思います。2巻目の刊行が決まっているので、まずはその創作に集中し、漫画化される作品を目指して頑張ります。

////////// メッセージ //////////

「これが好きだ」という気持ちを大切に、最後まで自分を信じ抜くことで夢が実現しました。あきらめなければ何とかなんと私は信じています。

小説を書きたい人は、数多く読むことも大切ですが、ぜひ、小説でも漫画でもいいので、1つのものを何度も繰り返し読み、分解・分析・再構築してみてください。私は、奈良大学の国文学科でこの手法を学び、実践することで書くことの基礎が身につきました。大学での学びを、ぜひ将来の自分に役立ててください。

～教員の近刊紹介～

◆ 文献史学と民俗学 地誌・随筆・王権

文学部史学科・教授 村上紀夫 著、風響社 2022年10月刊行

◆ 近鉄沿線の近現代史

文学部地理学科・教授 三木理史 著、クロスカルチャー出版 2022年10月刊行

◆ 歴史を読み解く城歩き

文学部文化財学科・教授 千田嘉博 著、朝日新聞出版 2022年11月刊行

◆ 民衆たちの嘆願 ーヘレニズム期エジプトの社会秩序

石田真衣 著
大阪大学出版会 2022年9月刊行



著者の石田真衣さんは、本学文学部史学科の卒業生です。西洋史を専攻し、足立広明先生のゼミで学びました。卒業後は大阪大学大学院に進学され、文学研究科博士後期課程を単位取得退学、博士(文学)号を取得されました。現在、大阪大学大学院人文学研究科特任研究員、招聘研究員、非常勤講師として活躍されています。

石田 真衣 さん

(文学部史学科 2007年3月卒業)

アレクサンドロス大王の遠征後、約300年のあいだ、東地中海世界はヘレニズム時代を迎えます。エジプトはギリシア・マケドニア系のプトレマイオス王朝の支配下に入りました。そのような文化混淆の時代のなかで、多くのエジプト人たちは何を考え、どのように行動していたのでしょうか。この本で示した大きなテーマは、奈良大学で学んでいた頃から問い続けてきたものです。

本書は、この時代を生きた民衆たちの姿を捉え、エジプト社会がいかなる変容を遂げたのかについて解き明かしていく試みです。その手がかりとなるのは、王や役人たちに宛てられた嘆願書です。住民たちは日常生活において事件やトラブルに遭遇してしまったとき、その解決を依頼するために嘆願書を提出しました。ギリシア語やエジプト語で書かれた約740点の嘆願書とそれに関連する裁判や和解の記録からは、さまざまな事情を抱えた住民たちの訴えと、その声を聞き届ける役人や神官たちの行動を読み取ることができます。多元的な規範が併存する社会において、人々が選んだ秩序回復の方法とは何であったのか。その一つの答えを民衆の視点から導き出したことが本書の新たな挑戦です。

////////// メッセージ //////////

本を出版することができたのは幸運でした。でもその運をつかむためには、チャンスを見つけることが大事だと実感しています。やりたいことや興味があることを大切に、ぜひ貪欲になってください。いつか訪れるチャンスのために、その秘めた熱さをかたちに変える力を養ってほしいと思います。

法人本部

市川良哉前理事長を偲ぶ会

令和2(2020)年1月18日に85歳でご逝去された学校法人奈良大学 市川良哉前理事長を偲び、去る10月23日に奈良大学講堂において「市川良哉前理事長を偲ぶ会」が執り行われました。

当日は、市川良哉前理事長のご遺族をはじめ、約300人の方々にご参列いただき、来賓の偲ぶ言葉を日本私立大学協会 常務理事・事務局 小出秀文様、感謝の言葉を学校法人奈良大学 理事で小山株式会社代表取締役会長の小山新造様、学校法人奈良大学評議員の坂ノ上泰博様、小橋嘉宏様より頂戴しました。

浅川正美理事長より主催者挨拶として、「故人の志を継ぎ、これからも法人の発展に努めたい」との決意を述べられるとともに、参会者に感謝の意を表されました。



附属高等学校

第2学年対象オンライン国際交流プログラム

9月下旬、第2学年対象のオンライン国際交流プログラムを実施しました。「英語力・非言語力の向上」「異文化理解」「伝統文化遺産継承の課題解決」を目的としたこのプログラムでは、生徒たちがグループに分かれ、インドネシア・インド・ニュージーランドの学生たちとオンラインで交流をしました。自己紹介や共通点探しゲームをおこなったあと、生徒たちは事前に準備してきた写真やスライドを使いながら、SDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」についての探究活動の成果を英語で発表しました。

プログラムを終えた生徒たちは「英語は苦手だったが、簡単な単語でも伝えることができ、自信がついた」「相手に伝わるように話すためにはどうすればいいのか、もっと考えたい」など、コミュニケーションツールとしての英語について興味を深めたようでした。



附属幼稚園

秋の遠足

10月下旬から11月上旬にかけて、年少さん、年中さん、年長さんに分かれて遠足に行ってきました！どの学年もお天気に恵まれ、さわやかに気持ちの良い秋の季節を感じることができました。

年少さんはひみっこパークで、「静」と「動」の遊びゾーンのほか、ソフトブロックやギアウォールなどさまざまな遊びを体験しました。どの遊び場でも子どもたちの弾ける笑顔を見ることができました！入園時と比べ、身体のバランスが随分良くなり、ロープでできたジャングルジムも器用に登れるようになりました。お友達と一緒に遊ぶ子どもも多く、友達同士のつながりが見られました。子どもたちの成長を感じる遠足でした。

年中さんは、橿原市立こども科学館で、体を使い遊びながら学びました。ペットボトルロケットを飛ばし、その音とスピードに子どもたちはびっくり。磁石や電気を使ったコーナーでも楽しく遊び、不思議でおもしろい科学の世界を体験しました。また橿原神宮公園では、どんぐり拾いや落ち葉拾いなどをしました。池には水鳥がいて、子どもたちが近づくとスーッと寄ってきてくれました。科学と自然に触れた、学びの多い1日でした。

年長さんは生駒山上遊園地で、いくつかの乗り物に乗り、楽しかったと大満足でした。人気は急流すべりだったようです。お昼はレストランでスペシャルカレーをいただき、お友達と一緒に特別な時間を過ごしました。園の行事ではキラリとした姿を見せてくれる年長さんが、夢中で遊園地を楽しむ姿は、とても可愛らしかったです。

楽しい楽しい遠足。お家にはたくさんのお土産話を持って帰りました。

